

平成27年度 パラリンピックを目指す選手の車いす陸上競技合宿報告

主催：NPO法人ソーシャルインクルージョン研究センター
協力：熊本保健科学大学、熊本高等専門学校
後援：熊本日新聞社、KKT、TKU、RKK、KAB
期日：平成27年9月4日（金）～6日（日）
集合：9月4日（金）午後14時00分～ 準備後開始
解散：9月6日（日）午前練習終了後解散
場所：阿蘇市農村公園あびか 陸上競技場



今回、リオデジャネイロパラリンピックおよび東京パラリンピックを目指す、若手車いす陸上選手（T34、T51）を対象に、合同合宿を開催した。

普段、それぞれ一人で練習を行っているT34クラスの選手を中心に、東京・神奈川・宮崎・熊本より合計5名の選手が参加した。

期間中には、100mの加速度測定において、国立熊本高等専門学校准教授の高橋恭平先生（学生2名含む）、動作解析において、熊本保健科学大学講師の松原誠仁先生（学生6名含む）にご協力いただき、選手の走行データ解析のための測定も実施することができた。

ロンドンパラリンピックや、仁川アジアパラゲームスに出場した選手から初心者の選手まで、21～25歳という若手選手であった。日頃は特に指導者もおらず、独自に練習を行っているものがほとんどであったため、基本的な駆動動作の確認から実施。練習全体としては、スタートダッシュのフェーズを中心に開始し、最終日には中間加速までの練習を行った。また、各選手それぞれの課題を明確にするために、宿舎にてスロー動画を全員にて確認しながら、ミーティングを行った。これまで自身の駆動フォームを見る機会があまりなかったためか、各選手食い入るように映像を見ていた。

合宿中には、地元中学生や九州各地の大学陸上部が合宿に訪れており、非常に活気ある雰囲気の中、練習を行うことができた。また最終日には、日程の重なっていた地元のマスターズ陸上大会の100mにおいて、一組くみこんでいただくことができた。審判の先生方も、参加していた小学生～高齢者の幅広い世代の方々も初めて見る方がほとんどという状況の中、今回の合宿において明確になった課題を念頭に、レースを実施することができ、非常に有意義な合宿となったのではないかと感じた。

文責 野崎